

日漢語「～化」之對比研究

蘇文郎

政治大學日本語文學系教授

摘 要

派生語「～化」在日漢兩語的文章裏使用頻度極高，且其語彙結構、意義特徵在兩語之間也具有相當程度的對應關係，但不可否認的在意思和用法方面也存在不少差異性。

本研究作為日漢語變化表達法研究的一環，從型態、意義、句法結構的觀點探討派生語「～化」的意義特徵及用法。探討的重點分下列 3 點：

- 1) 「～化」的語彙結構及意義特徵
- 2) 「～化」的自他性
- 3) 日漢語「～化」的對應關係

相信透過兩種語言間的類似點和差異點的對比分析，必能將「～化」的語法、句法結構及意義特徵釐清，對相關的語法研究和教學有所助益。

關鍵詞：派生動詞、複合動詞、詞彙概念結構、虛詞化、對應關係

日中両語の「～化」の対照研究

蘇文郎

政治大学日本語文学系教授

要 旨

接辞「化」を含む派生語「～化」は日中両語の文章においてどちらともよく用いられている。「～化」は語構成といい、意味といい、日中両語間ではかなりの程度まで対応しているが、意味、用法のずれが少なからず存在することも否めない。

本研究では日中両語の「～化」について形態的、意味的、語用論的観点から以下のようなものを考察対象とする。

- 1) 「～化」の語構成及び意味構造
- 2) 「～化」の自他性
- 3) 日中両語における「～化」の意味、用法の対応関係

そのような両言語の相違点と類似点を明確することによって、「～化」としての普遍性と共に、日本語なり、中国語なりの独立性も見えてくるだろう。

キーワード：派生動詞、複合動詞、語彙概念構造、文法化、対応関係

A Contrastive Analysis of the Derivational Verb —“~Ka” Between Japanese and Chinese—

Soo, Wen-Lang

Professor, National Chengchi University

Department of Japanese

Abstract

The aim of this study attempts to make a comparison between Japanese and Chinese languages, concerning the derivational suffix *~Ka* (“become / make X”) from the viewpoint of morphology, semantics and syntax. The main discussion includes:

- 1) The morphological structure and the special meaning of such category
- 2) The intransitive and transitive uses about “*~Ka*”
- 3) The correspondence on “*~Ka*” between Japanese and Chinese

I firmly believe the conclusions resulting from this study will be able to make some contributions to theory/application in contrastive analysis between Japanese and Chinese, and even to the strategies of second language teaching.

Keywords: derivational verb, compound verb, lexical conceptual structure, grammaticalization, correspondence

日中両語の「～化」の対照研究

蘇文郎

政治大学日本語文学系教授

1. はじめに

1. 1 本研究の背景

“化”は日中両語とも他の成分と合成の面において、極めて強い造語力を見せる接辞の一つである。語源が同じであるゆえに、接辞としての“化”は中国語と日本語の間では多分に類似した性格を持っている。そのため、両国語における“化”が含まれる複合語や派生語の中には同形で意味も一致するものが極めて多い。一方、形態は同じであるが意味に相違が見られるようなものもずいぶん数多くある。「～化」は語構成といい、意味といい、日中両語間ではかなりの程度まで対応しているが、意味、用法のずれが少なからず存在することも否めない。

本研究は日中両語におけるこのような“化”が用いられる複合語や派生語に見られる類似性と相違を形態論と語用論の観点から考察を試みる。

1. 2 先行研究と本研究の目的と分析方法

日本語と中国語の接辞“化”について個別に扱う論文はこれまでずいぶん見られたが、先行研究についての詳しい紹介は蘇（2004）を参照されたい¹。対照研究の形でこの問題を正面切って扱っている論文は筆者の知っている範囲では皆無のようである。

日本語と中国語は異なる系統に属する言語であり、漢語系接辞“化”を日本語化にする場合、なんらかの相異が生じるのは自然なことである。それらの違いはどんなものを明らかにし、相違の生じる原因を探ることは“化”全体の特質を究明する上で、有意義で

¹ 蘇（2004）「日本語派生動詞“～化する”の研究」頁179～201、『東呉日語教育学報』27。2004年以降のものとしては小林英樹（2004）、影山太郎（2008）などがあげられる。中国語の“化”についての研究には湯（2002）がある。

ある。

本研究は以下のようなものを考察対象とする。

- 1) 「～化」の語構成及び意味構造
- 2) 「～化」派生動詞の自他性
- 3) 日中両語における「～化」の意味、用法の対応関係

両言語の相違点と類似点を明確にすることによって、「～化」の普遍性と共に、日本語、中国語それぞれの独立性も見えてくるだろう。

日中両語の“化”に関する意味用法の分析をするには何か共通の理論的根拠がどうしても必要になる。本研究では語彙概念構造 (Lexical Conceptual Structure : LCS) の考え方を導入して分析を試みる。語彙概念構造は基本的に動詞や形容詞という述語の意味構造であるから動詞の派生に関する接尾辞の分析には特に有効な手段であると考えからである²。

2. “化”の使用分布と語構成の種類

2. 1 化の使用分布

“化”は単独に動詞として使用できる以外に、以下のようにいろいろな語（語根）と結合してさまざまな合成語を形成する。

一字名詞+化：風化、気化、液化、欧化、羽化、酸化、唇化…

一字形容詞+化：悪化、激化、劣化、強化、弱化、鈍化、深化、美化…

一字動詞+化：進化、退化、変化、転化、分化、孵化、溶化…

二字名詞+化：表面化、長期化、社会化、問題化、制度化、視覚化、商品化、証券化…

二字形容詞+化：実用化、複雑化、簡単化、活発化、正当化、多様化…

二字形容詞兼名詞+化：近代化、現実化、自由化、抽象化、普

² 本研究における中国語の「～化」についての分析は湯（2002）の言語理論に負うところが大きいにある。

遍化、合理化…

二字動詞＋化：立法化、減量化、減少化、統一化、固定化、拡大化…

多字（名詞、形容詞、動詞）＋化：社会問題化、個人単位化、
関係正常化、申告分離化…

（以上はいずれも日中語同形のものである。日中語で形が異なるものについては次節で触れる）

以上の例で分かるように“化”は合成語の構成要素として活発な造語力を発揮し、現代日本語と中国語では一つ重要な変化表現の形式をなしている。そして、新聞や雑誌などの文章語に多用されているばかりでなく、日常語の話し言葉でもずいぶん多く用いられるようになっていく。

2. 2 漢語としての単純動詞“化”の意味用法

漢語の単純動詞“化”は文章語として常に“為”や“成”と結合して使われる。

1. a. 化整為零（全体のをばらばらにする）
- b. 化腐朽為神奇（腐朽を化して神奇とする）
- c. 化干戈為玉帛（戦争状態を平和に返す）
- d. 化險為夷（危険な状態を平穏な状態に変える）
- e. 化為烏有（烏有に帰す）
- f. 化為泡影（水泡に帰す）

（日本語訳は『現代中国語辞典』による）

これらの語句の“化”は基本的に使役他動（CAUSE）と状態変化（BECOME）の働きをし、“為”は“化”の使役他動によって引き起こされた結果状態「BE」を表す。現代中国語ではこのタイプの“化”の使役他動的（accusative）用法が“為”の繫詞的用法と組んで変化自動的（unaccusative）用法に転換する。

2. a. 我們要化悲憤為力量 <使役他動詞的用法>

- b. 他可以化腐朽為神奇 <同上>
- c. 努力化為泡影 <變化自動詞的用法>
- d. 悲憤化為力量 <同上>

2a, b では“化”と“為”が離れていて、間に対象の目的語（悲憤、腐朽）が入っている三項述語(three-place predicate)であるのに対して、2c, d では“化”が“為”を介して変化述語「BE」の働きをする二項述語(two-place predicate)である。

- 3. a. 冰都化了（氷がとけてしまった）
- b. 冰都融化了

“化”は 3a のように自動詞として一項述語(one-place predicate)にも使える。ただし、一項述語としての“化”は、落ち着きが無く、普通“融化”のように複合動詞にとってかわる場合が多い。

使役他動詞としての単純動詞“化”には次のような語彙概念構造と項構造と統語構造を持っている。

- 4. a. 概念構造：[x CAUSE [BECOME [y BE INTO-z]]]
- b. 項構造：

<Ag	<Go	<Th>	>
外項	間接内項	直接内項	
- c. 統語構造：

<x _ガ	<z> _{ニ/ト}	<y> _ヲ	>
主語	結果状態	対象	

2a の“我們要化悲憤為力量”においては“我們”を主語または「外項」(external argument)に、“悲憤”を目的語または「(直接)内項」((direct) internal argument)、そして“力量”を間接内項(indirect argument)にとる。一方、2d の“悲憤化為力量”では“化”と“為”がくっついて用いられる場合には変化自動詞として使われるために、二項述語となる。この場合、「内項」の“悲憤”を主語に、そして間接内項の“(為)力量”を述語補語にとる。

使役他動詞及び変化自動詞としての“化”が持つ意味構造と統語構造をそれぞれ次の語彙概念構造で示すことができる。

5. a. [x CAUSE [BECOME [y BE INTO-z]]]
 | └──┘ | | |
 我們 化 悲憤 為 力量

6. a. [BECOME [y BE INTO-z]]
 | | | |
化 悲憤 為 力量

b. < Th、 Go >

c. < y_ガ z_{=/ト} >

小文字の x (外項)、y (内項) と z (間接内項) は変項 (variable) で、2a の “我們”、“悲憤”、“力量” がそれぞれに該当する。大文字の CAUSE (使役)、BECOME (変化) と BE (状態) はそれぞれ意味述語 (semantic predicate) を表す。

2. 3 複合動詞 “V 化” の意味用法

単純動詞の “化” は変化を表す同義語や類義語の単純動詞と組み合わせ、並列式の複合動詞 (例えば 転化、変化)、あるいは状態 (IN-THE-MANNER-OF)、手段 (By-MEANS-OF) などの一字動詞と組み合わせ、偏正式の複合動詞 (例えば 分化、進化、退化、帰化、焚化) を作る。これらの複合動詞の中で後部語根となる “化” は基本的に単純動詞 “化” の概念構造を持っている。CAUSE (使役)、BECOME (変化)、BE (状態) の三つの意味述語を含み、外項 (x)、内項 (y)、間接内項 (z) を備えている複合動詞は三項述語となる。一方、外項の使役者の外項が表に現れない (即ち “x → ∅”) あるいは x が変化対象の y と同一物と見なされる (即ち “x = y”) の場合はこの複合動詞は二項述語または一項述語となる。次の “焚化”、“進化”、“退化”、“帰化” の概念構造を比べてみるとその違いが分かる。

7. a. [焚化]_{vt}: [x CAUSE [BECOME [y BE INTO-z BY-MEANS-OF-焚]]]
 └──┘
 化

b. [進/退化]_{vi}: [BECOME [y BE INTO-z IN-THE-MANNER- OF-進/退]]

c. [帰化]_{vi}: [BECOME [y BE INTO-z BY-MEANS-OF-帰]]

2. 4 派生動詞 “N 化” と “A 化” の意味用法

2.2 の考察で分かるように単純動詞“化”の概念構造と項構造はこのように複合動詞において後部語根の“化”に継承 (inherit) されている。そして、派生動詞においても、受け継がれている。N 語根の派生動詞 (‘N 化’) でも形容詞語根の派生動詞 (‘A 化’) は次の (8) (9) の概念構造を持っている。

8. [N 化]_{ve}: [x CAUSE [BECOME [y BE WITH-z]]]
 └───┘ |
 化 N <property>
9. [A 化]_{ve}: [x CAUSE [BECOME [y BE AT-z]]]
 └───┘ |
 化 A <state>

(8)と(9)の概念構造は使役作用（即ち“x CAUSE…”）と変化結果（即ち“BECOME [y BE…]”）が合わさったものである。変項の x と y はそれぞれ外項の使役者と内項の対象物の名詞句（項）に対応する。BE という述語概念に「位置」(position)、「所有」(possession)と「述定」(identification)といった意味の磁場 (semantic field) の素性を付加することによって、変化結果を表す z は「場所」(place)、「内在的属性」(property)、「状態」(state)などの意味概念に分類できる。例えば“口蓋化”、“唇化”、“局部化”などの派生動詞の概念構造に「位置」や「場所」の属性、そして“西化/西洋化”、“欧化”、“機械化”などの派生動詞には「内在」の属性、さらに“美化”、“強化”、“理想化”などの派生動詞には「述定」や「状態」の属性が含意されることになる。

影山（2008）はクオリア（qualia）構造の概念を導入して「-化」が表す属性を次のように定義している。

「X 化」という形態は、修飾（叙述）する名詞の内在的な属性が X に変化することを意味する。「-化」が表す内在的属性（プロパティ）とは、「被修飾名詞のクオリア構造における形式役割、構成役割、あるいは目的役割に記載された何らかの要

素を指す。

そして形式役割、構成役割、目的役割のそれぞれの具体的な内容について次のようにとらえている。

形式役割：モノの物理的な性質（具象物か抽象物か、固体か液体か気体か生物か無生物か、人間か動物か神か、大きい小さいか等）³

構成役割：ものの構成部品、材料、材質、成分等⁴

目的役割：モノ本来の目的や機能、その物を特徴づける恒常的性質（人間なら典型的な性格）⁵

というように、「x化」という形態は、「主語が／をX化する」におけるその主語名詞が持つ何らかのプロパティ（即ち、クオリア構造の形式役割、構成役割、あるいは目的役割に記載された何らかの要素）をXに書き換える（あるいは、そこにXという概念を付加する）という働きが認められる。そして、これにより「～化」は、内在的属性に特化した言語形式と見なすことができ、その「内在的」という意味合いはどこから出てくるのかということが説明できた。

3. 日中両語の対応関係

以下では「-化」のついた語が中国語と日本語ではどのように用いられているのか、構文論的と語用論的観点からお互いにどのような類似点と相違点があるのかを明らかにする。

³ 具体例として次のようなものをあげている。a 名詞全体の物理的な性質：液化、気化、ミイラ化、ゼリー化、数値化、具像化、抽象化、可視化、名詞化... b 全体の大きさ、形状、固さ、色合いなど：肥大化、矮小化、大型化、スリム化、音声化、3D化、硬化...

⁴ 具体例として次のようなものをあげている。a 内部の組み立て方：統一化、画一化、モジュール化、類型化、グラフ化、多様化、（社会の）高齢化... b 構成成分の性質：デジタル化、有声化、口蓋化、映画化、アニメ化、欧米化、無人島化、（書類の）電子化...

⁵ 具体例として次のようなものをあげている。a 使用目的、用途：汎用化、商品化、製品化、専門化 b 使用の仕方：自動化、マニュアル化、機能化 c 典型的な性格・振る舞い、機能など：幼児化、男性化、女性化、凶暴化、タレント化

3. 1 「～化」の持つ自他性

10.

他動

使役

變化自動

他動

變化自動

使役

11.

12.

a 料理を簡便化する

b 料理を簡便化させる

c 料理が簡便化する

a' * 簡便化料理

b' 把料理簡便化

c' 料理簡便化

87

もっとも語根に形容詞的なものが来る三字派生動詞、例えば“極大化”、“汚名化”、“深刻化”、“妖魔化”、“汚穢化”のような場合には

13. 藉此極大化選舉效益

14. 在野黨不宜繼續汚名化公民投票了

15. …因此也能深刻化並具廣延化了台灣文學的內涵與外延。

他動詞としての用法も許される。ただし、どのような場合が使用可能になるかの制約については、今のところ不明なところがまだたくさん残っているため、結論を出すのを控えておく。これらの点についての検討は今後の課題として残す。

語根が単音名詞や一字形容詞の派生動詞（N 化、A 化）は殆ど自他両用の能格動詞（ergative verb）として、使役他動詞と変化自動詞の用法を合わせ持っている。ただし、どのような場合に変化自動詞にどのような場合に使役他動詞になるのかは、内項の対象物に自力性（影山 1996 では「内在的コントロール」と呼んでいる）があると判断された場合に自動詞用法が成立する。

日本語の多字派生動詞“～化する”の自動性、他動性について筆者は蘇（2004）で考察を行ったが、本研究との関連で、要点だけをまとめておく。

多字派生動詞“～化する”の意味が自動詞的か、他動詞的であるかは、恣意的に決められているのではなく、語基が表す状態がもともと自然発生的に起こるのが常態であるか、あるいは人為的にもたされるのが普通であるかによって決まる。「表面化する」、「泥沼化する」、「深刻化する」、「現実化する」、「複雑化する」などのようなものは人の意志とは関わりなく、自然発生的な出来事を表すから、意味的に何ら使役作用の兆候を示されないため、もっぱら自動詞として使われる。他動詞として使いたい時は「表面化させる」、「泥沼化させる」のように使役の形にする。そして、人間が意図的に引き起こす事態として認識される「制度化する」、「視覚化する」、「商品化する」、「データベース化する」などはいずれも人の手を経ずに実

現することは不可能である。そのため、こういったものはもっぱら他動詞として使われる。なお、「実用化する」、「問題化する」、「具体化する」、「多様化する」、「デジタル化する」、「活性化する」、「近代化する」、「本格化する」、「活発化する」などは自他両用の動詞で、自動詞として使うか他動詞として使うかは発話者の視点や認知形態あるいは信念体系によって決まる場合が多い⁶。

3. 2 受動的意味が含意される“化”

これまでの考察で分かったことは派生動詞の接辞“化”には、自動的变化、他動的变化及び使役と三つの基本義を持っている。なお蘇（2004）は日本語の自他両用の派生動詞“～化する”には受動的意味を合わせ持っていることを指摘している。“化”に受動的意味が含意されていることは中国語の自他両用の派生動詞についても言える。これは 10～12 の日中語の例文を通して確認できる。10～12c と c’ の能動文は次の 10～12d、d’ の受動文に言い換えても知的意味は殆ど変わらない。

10. d テレビがデジタル化された

10. d’ 電視被數位化了

11. d 雇用形態が多様化される

11. d’ 雇用型態将被多樣化

12. d 料理が簡便化される

12. d’ 料理被簡便化

このように自他両用の派生動詞には自動変化、他動変化及び使役の意味を持っていると同時に、自動詞用法に受動的意味が含意されるというようなことが分かる。これは日中両語に共通して見られる“化”の持っている意味的特徴と言えよう。いわば日中語とも動詞に受身を表す「ラレル」、「被」の付加という形態的特徴がないにもかかわらず、「デジタル化される」、「被數位化」のようにその表す意味は受動と等価になる。したがって、“化”は受動が含意される受動

⁶ 蘇（2004：192－194）

的接辞ととらえてもよかろう。こういうことは下の 16～18 の例文でも裏付けられよう。

16. 媽祖代表傳統漢人社會中「理想化」的女性形象。(自由時報)
(被理想化)

17. 礁溪分局長指若因一封檢舉信而污名化是不公平的。(自由時報)
(被污名化)

18. 橘：合併議題弱化 (自由時報)

選舉進入白熱化…國親合併議題將會被弱化…

3. 3 日中語とも見られる“變成～化”と“-化になる”形式の二重変化表現

3. 3. 1 変化動詞「變成」の余剰付加

中国語では「何がどうなるか、あるいはどういう状態をおびたか」といった意味を、まともに対応しない述語形態で表現し、乱れているとも言える変化動詞「變成」の余剰付加現象が見られる。下の文 19～23 に示されたように、もともと変化自動詞文 19”～23”のように“X～化”の形式で表してもいいが、それをわざわざ

19. 影印授權範圍標準明確化，也可能變成僵硬化。(自由時報)

20. 有些國民黨立法委員擔心，國親合併(國民黨)會變成親民黨化。(自由時報)

21. 由於移民關注母國的選舉，政治事務也開始變得全球化。(中國時報)

22. 如網際網路、生物科技等，非但未大發利市，有的更在瞬秒之間成為泡沫化。(『講義』2004)

23. 然而，攻打伊拉克如果無法重演波斯灣戰爭，則將變成泥淖化，屆時美深陷內戰四起。(聯合晚報)

19” 影印授權範圍標準明確化，也可能僵硬化。

20” 有些國民黨立法委員擔心，國親合併(國民黨)會親民黨化。

21” 由於移民關注母國的選舉，政治事務也開始全球化。

22” 如網際網路、生物科技等，非但未大發利市，有的更在瞬秒之間泡沫化。

23” 然而，攻打伊拉克如果無法重演波斯灣戰爭，則將泥淖化，屆時美深陷內戰四起。

“變成僵硬化”、“變成親民黨化”“變成泡沫化”などのようにして項関係とまともに対応しない余剰な形で、いわゆる二重変化表現が用いられる。意味としては変わらないが、変化動詞「變成」が余剰付加されている。このような二重変化表現の文は頻繁ではないが、実際に使用されている。

項関係からすれば余剰な変化動詞「變成」が具現しているにもかかわらず、その余剰な具現が多くの中国語話者に自然と判断されることになる。

その影響で中国語話者の日本語作文には“X が～化になる”のような誤用が起きることが予測できる。学生の作文には次のような誤用の例がよく見られる。

24. * 台湾は近年ずいぶん民主化になった。

25. * …これらの分野の隠語が活発化、多様化になるという趨勢が強いようである。

26. * 日本経済はつい泡沫化になった。

27. * こういう反政府運動は長期化になるだろう。

28. * 外国人の友達をたくさん作れば、自分の考え方も国際化になれます。

3. 3. 2 規則逸脱的な変化動詞「なる」の余剰付加

一方、上掲した中国語の“變成一化”の二重変化表現はそのまま“～化になる”形式の表現に和訳すると不自然を感じてしまう。すなわち、「～化」に「する」を加え「～化する」にすればいいもので、「～になる」は余剰的な存在になる。

* 硬直化になる

硬直化する

* 親民党化になる

親民党化する

* グローバル化になる

グローバル化する

*泡沫化になる

泡沫化する

*泥沼化になる

泥沼化する

中国語の“變（成）-化”に当たる「～化になる」のような二重変化表現による述語文は、日本語においては成立せず、いずれももっぱら派生動詞「～化する」形式の表現で対応するのが普通である。

3. 3. 3 項と述語のミスマッチ

一方、日本語にも 3-3-1 で述べた中国語に見られる二重変化表現じみた下記のような“～化に/となる”形式を取る言い回しが見られる。

29、何で高等学校指導要領に従わない朝鮮学校が無償化になる訳？

30、ラグナロクは年内中に有料化になる予定だそうです。

31、最近 BL がアニメ化になるのは珍しくないことになってきました。

32、ムバラク独裁が大衆行動で崩壊し、エジプトは民主化に向かって、動きはじめた。しかしその「民主化」は「イスラム化」になってしまっているのではないか。そんな懸念があちらこちらでささやかれている。

前に示した基準から判断すれば、「～化に/となる」における変化動詞「なる」の付加は、文法の規則を無視した逸脱的な現象になる。ところが、現実には 3-3-2 に示した推論に従えばありえないはずの「～化に/となる」という言い回しが行われている。

このことから、「～化」への「に/となる」の付加は余剰であるという見方は事実の片面的な理解でしかないことが分かる。

33、さらに、日本民謡と特典盤に収められた音源に関しましては、共に本セットが初の CD 化となる貴重な演奏です。

34、これら 4 作についてはいずれも初の単行本化となる。

35、新たに「無料化」となる高速道路 も登場。国土交通省は 2011 年 6 月 7 日、20 日以降の高速道路の割引体系を明らかにした。

- 36、新型の PS3 は 120GB の HDD を搭載しているほか、機能そのまま従来よりも 33%の薄型化となる約 290×65×290mm の本体サイズ (80GB モデルは約 325×98×274mm) や 36%の軽量化となる約 3.2kg の本体重量 (80GB モデルは約 4.4kg) を実現しており、消費 ...
- 37、テイラー・キッチュやリン・コリンズといったキャスティングも含め、シリーズ化を視野に入れた作品であり、前々から原作の映画化を熱望していたディズニーにとっては念願の実写映画化となる。

(例文 29～37 はいずれも WEB からとった例である)

なぜこうした「に/となる」の付加が許容されるのか、上掲した例文を通じて分かるのは上の例の派生語「一化」全体が事態変化を表した名詞句 (NP) になり、そして「となる」は意味的に属性を表す「の/である」に解釈できることである。例えば (33) 「初の CD 化となる」 (34) 「初の単行本化となる」 (35) 「無料化となる」

(36) 「33%の薄型化となる/36%の軽量化となる」はそれぞれ「初の CD 化である貴重な演奏」、「初の単行本化である」、「新たに無料化の高速道路」、「33%の薄型化の約 290×65×290mm の本体サイズ」「36%の軽量化の約 3.2kg の本体重量」のように「～の/である」という属性を表す、即ち機能語へと変化している。したがって、「～化」と「となる」が併用されても余剰的付加にはならない。このように 33, 35, 36 の「に/となる」を意味的に属性を表す「の/である」に解釈すれば、前接名詞句 NP1 と後接名詞句 NP2 の関係が「NP1=NP2」いわゆる同格関係にあるという文法的機能を果たしていることになる。そして文 34, 37 は、動詞述語句「となる」が用いられてはいるが名詞述語文相当だということになる。

3. 4 中国語だけが持つ副詞的用法の“-化 V”

派生語にはさまざまな構造のものがある。日本語における“～化”の派生語は名詞と動詞としての用法しかない。それに対して中国語

では名詞と動詞の用法以外に副詞的用法も見られる。

38. 麥金尼斯會唔游揆擔心台灣經濟台商受打擊建議台灣經濟要多元化發展

V

39. 尤其在藍軍內部目前接班態勢未明情況，馬英九任何動作都可能被政治化解讀。(中國時報)

V

40. 希望各界能「政治歸政治，教育歸教育」，不要以政治觀點太簡化地看問題

V

上の例文の“多元化”、“政治化”、“太簡化”はいずれも後接の動詞“發展”、“解讀”、“看”を修飾する連用的・副詞相当語である。

「一化」には日中両語ともに装定的用法つまり連体修飾としての用法がある。

用例：

(日)	←→	(中)
<u>高齡化社会</u>		<u>高齡化社會</u>
<u>デジタル化カメラ</u>		<u>數位化相機</u>
<u>浄化作用</u>		<u>淨化作用</u>
<u>バリアフリー化施設</u>		<u>無障礙化設施</u>
<u>産業空洞化現象</u>		<u>產業空洞化現象</u>
<u>IT化進展</u>		<u>電子化進展</u>

しかも、日中語とも無標の装定的用法であるが、意味的には有標の“～化の”“～化した”、“～化的”⁷とまったく同じ役割を果たしている。これも「～化」に関する日中語共通の用法上の特徴の一つと言えよう。ところが、38～40に示されたこれらの副詞相当語は日本語になると“多元的に”、“政治的に”、“簡単に”のように形容詞

⁷ “～化的”は中国語における有標の装定的用法である。

の連用形で対応する。中国語では派生語「～化」は連用修飾の機能を持つのに、日本語では「～化」を用いて直接、動詞を修飾することが難しい。これは中国語において接尾辞“化”がつくことで異なる機能の追加ができるという意味で中国語での“化”が持っている意味用法が比較的に広いとも言えるだろう。

中国語においてはこういった使い方の例はこと足らないことはなく、他にもたくさん見られる。

例えば （二重下線は被修飾語の動詞）

全程透明化處理/電腦化・系統化處理/科學化訓練/高質化發展/多角化經營/首位科學化記錄茅台酒神秘釀造過程的人／標準化生產/制度化協商/政治化聯想/組織化控制

4. 結語

本研究は“化”の日本語と中国語における語彙的、構文的、意味的類似性を語彙概念構造の概念に基づいて、それらの具体的な様相を類型化して考察を進めてきた。日中両語間ではかなりの程度まで構文と意味において対応を示している一方、その対応関係は一様ではないことが分かった。その意味で、中国語話者の学習者に対しては、構文や意味用法にかなりずれが存在していることは、日本語と中国語の「～化」がきれいに対応しているわけではないので、単純に翻訳して用いることは危険である旨注意すべきと思われる。

紙幅の関係で両言語の体系的な対照研究までには至らなかったが、今回探究できなかった問題は今後の研究課題としていきたい。

参考文献

池上素子「「～化」について－学会抄録コーパスの分析から－」、『日本語教育』106号、2000。

江口泰生「漢語サ変動詞の自他性」、『奥村三雄退官記念－国語学論叢』桜風社、1989。

影山太郎『動詞意味論』、くろしお出版、1996。

- 影山太郎『形態論と意味』、くろしお出版、1999。
- 影山太郎「属性叙述と語形成」『叙述類型論』、益岡隆志編、くろしお出版、2008。
- 加納千恵子「漢字の接辞的用法に関する一考察（2）「化」の品詞転換機能について」『文芸言語研究言語篇』第17号、1990。
- 黃其正『現代日本語の接尾辞についての研究』博士論文（未公開）、広島大学大学院教育研究科、2001。
- 小林英樹「漢語動詞の自他」『日本語教育』107号、2000。
- 小林英樹『現代日本語の漢語動名詞の研究』、ひつじ書房 2004。
- 須賀一好「自他の違いー自動詞と目的語、そして自他の分類」『動詞の自他』、ひつじ書房、1995。
- 定延利之『認知言語論』大修館書店、2000。
- 蘇文郎「日本語派生動詞“～化する”の研究」『東呉日語教育學報』27期、2004。
- 田窪行則「～化」『日本語学』VOL5、明治書院、1986。
- 湯廷池「漢語派生動詞“---化”的概念結構與語法功能」『中國語文研究』、2002。
- 鄧美華『日中同形語の対照研究ー動詞の対応文型を中心ー』博士論文（未公開）杏林大学大学院、2003。
- 文化庁『中国語と対応する漢語』、1978。
- 三原健一『生成文法と比較統語論』、くろしお出版、1998。
- 劉月華他『現代中国語文法総覧』（下）相原茂監訳、くろしお出版、1991。

辞書

- 研究社 『新言語学辞書』、安井稔編、1971。
- 岩波書店 『広辞苑』第5版 新村出編、1998。
- 五南図書 『最新修訂国語活用辞典』、周何総主編、2004。
- 光生館 『現代中国語辞典』香坂順一編、1982。

例文出典

ウェブサイト (2011 Yahoo Japan)

毎日新聞 2000 年 CD-ROM

自由時報 2004

中國時報 2004

聯合晚報 2004

講義雜誌 2004 年 1 月

※2011 年 8 月 31 日受理・誓約 2011 年 12 月 5 日通過審査